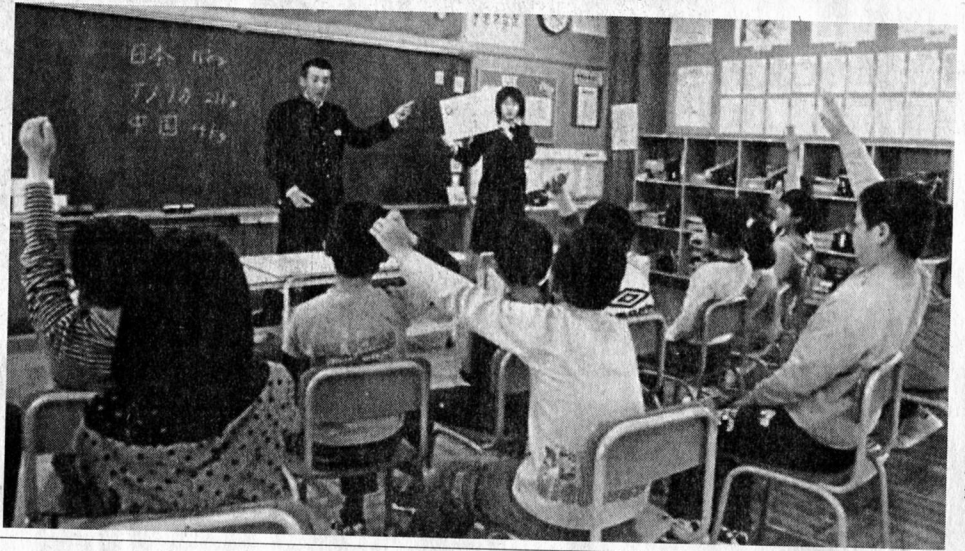


先輩の授業 楽しい



環境問題について、藤木小で授業をする中学生

◆大仙 市立大曲南中学校の2、3年生6人が、5月27、28日、藤木小学校と角間川小学校で、地球温暖化など環境問題についての出前授業を行った。

同中は2年前から環境問題に取り組んでおり、近くの小学校で授業を行ったもの。同中の黒田清志校長は「地球がどのようになっているか知ってもらい、みんながエネルギーを使わないように努力していくことができれば」と話す。

のまま温暖化が進めば海面が88センチも上がって、みんなの好きなアイスニールンドも沈んでしまうんだよ」との説明に、小学生からは「ええー」と大きなうめき。「みんなが息をしなければ二酸化炭素も出

ないんだけどね」との説明に、「ぼくのお父さん、オナラするからな」との反応があり、大笑い。「みんなが無駄なエネルギーを使わないようにしましょう」との呼びかけには、全員が大きな声で「はい」と答えていた。

小学生の一人は「自分の家では野菜を作っていて、それがエコだと思っていてけど、他にも努力することがあると思った。先輩たちの授業は楽しかった」と目を輝かせた。4年生を担当した同中生徒会長の澁江孟さん(14)は「緊張したけど、反応も良くて楽しかった。勉強になりました」とほっとした笑顔を見せていた。

(又井静子)

ほのぼの @ タウン

* タウンリポーターのコーナー

「ご飯食べなさい」看板でズバリ

◆横手 平鹿町上吉田のJA秋田ふるさと深間内倉庫に掲げられている看板は、ひらがなでズバリ「ま

まけまま」写真。市内から由利本荘市へ向かう国道107号沿いにある。シンプルだが、なぜか心が和む。「たくさんご飯を食べなさい」という意味。食事を促す際の秋田弁だ。

同JA青年部・平鹿支部の部員が考え出したキャッチコピーで、設置から間もなく1年になる。部員らは米の消費拡大を願い、1

「2100年には、こ

「2100年には、このままではいけない」との危機感から、米の消費拡大を願い、1

まるで植物園

◆大仙 土川生内の小松道夫さん(73)の自宅敷地約2000平方メートルで、100種類を超える樹木や高山系のラン24種が次々に花を咲かせ、うわさを聞きつけた訪問者が県内外からやってきて、ウグイスや野鳥の鳴き声に耳を傾けながら散策を楽しむ。

玄関前の約1000坪の道は白根葵ロード。淡い紫色やピンク色のシラネアオイの花に目を奪われる。庭に入ると、杉やイチヨウな



白根葵ロードの手入れをする小松さん夫妻

高原で登本海側のブナ林の透ける上色の美しいに咲き忘れらう。一株を付けるの栽培は、いい」と意図してきた。

取り組は14年後に何を

から、秋に稲穂が垂れるまで、米作りは休むひまがない。田回りと呼ばれる朝晩の水管理、「へぬぎ」と呼ばれる草取り(ヒエ取り)、施肥や除草剤散布。収穫間近に襲ってくる台風も心配しながら、多くの手間をかける。

この看板に込められた思いとは……。同JAの平鹿総合支店営農資材課青年部担当の山脇康文さんは「朝食を抜いたり、偏った食事をするなど、日本人の米離れが進んでいます。そんな人々に気持ちを伝えたいと考えたとき、『ままけまま』

「2100年には、このままではいけない」との危機感から、米の消費拡大を願い、1

「2100年には、このままではいけない」との危機感から、米の消費拡大を願い、1



田植え真っ盛りの今ごろ